産後 2 か月だけのお休み！

黒谷　玲子
大学院
理工学研究科
准教授

産休・育休取得期間
１回目：産休 2 ヶ月
(2012.1 - 2012.3)

２回目：産休約 2 ヶ月
(2013.11 - 2014.1)

出産
2012.1　（第１子）
2013.11（第２子）

【産休・育休に入るまで】

私がテニュアトラック助教として採用されたのは，38 歳の 9 月でした。その後，一人目の長女の妊娠が分かったのが，39 歳の春。テニュアトラックでは正式採用のための基準が詳細に定められており，研究のことを考えるととても不安でした。しかし，年齢を考えると妊娠・出産が可能なタイムリミットを意識せざるを得ません。そこで，私は『なるようになれ！』と思って，『できるだけ頑張る』というスタンスで研究を続けました。つわりがひどく，安定期がいつだったか分からないまま 10 か月を過ごしました。そのため，私は，早い段階で『どうせ寝られないなら，これまで通り研究をしよう』と決め，出産直前まで研究をしていました。結局出産予定日の 3 日前まで勤務。二人目の長男の妊娠の時は，ちょうど正式採用の審査を受けるか否かというタイミングでした。しかし，論文のリバイスが間に合わず，開き直って予定日の 1 週間前から休暇をとりました。それなのに，休暇初日の深夜に出産となり，結局出産前の産休はゼロに等しくなりました。テニュアトラックの時期は，学生の研究室配属や新しい実習の立ち上げなどはあったものの，講義はなかったので，講義の調整への心配はありませんでした。

出産前にやっていて良かったことは，保育園や乳児園の情報を集め，見学に行って希望の園を決めておいたことや，自治体の子育てサービスや市の小児科の情報を収集したことです。

【産休・育休に入ってから】

長女の出産の時は，産後 2 か月だけお休みしました。もともと動物や細胞を使った経時的変化を見る実験が多く，土日も夜中も実験という経験がたくさんありましたので，3 時間毎の授乳など全く苦ではありませんでした産休中は，論文のリバイスとアクセプト後の支払いなどをやったり，初めての学生の卒業研究発表を聞きに，こっそり会場に行きました。長男の時も産後 2 か月だけお休みしようと思っていましたが，ちょうど娘の誕生日が 1 週間後でしたので，有給休暇を使って娘の誕生日までお休みしました。産後休暇中，学生には研究室を一緒に運営しているメンターの先生を頼ってもらっていました。初めての出産で，すぐにお母さんという意識がもてず，一日ちょこっと卒論をみたりして落ち着きを保ちました。夕方に学生から相談の電話がきて，「え～今～っ！！」って思ったりしながら過ごしていました。

【産休・育休が明けて】

1 月生まれの長女の乳児園の利用は 4 月からとなり，実母とファミリーサポートの助けを借りて，入園までを乗り切りました。長男は 11 月生まれで次年度の 4 月まで長いなあと思っていたところ，希望の園から 2 月から入所可能と連絡があり，ラッキーでした。決まらなければ，実母とファミリーサポート，保育園の一時預かりの利用を考えていましたが，かなり費用がかかるなぁとブルーになりました。ゼロ歳児の保育料は高額ですので，二人目が半額でもかなりの保育料となり，子供を生むのにも育てるのにもお金がかかり，子育ては楽しいことばかりではないなと思ったことを覚えています。

【最後にひとこと】

私は産後 2 か月しかお休みをとりませんでしたが，テニュアトラックという立場だったことも大きかったと思います。アメリカでポスドクをしていた時，たくさんの若い女性研究者が当たり前のように 20 歳代～30 歳代前半に結婚・出産されていて驚きました。彼女たちは 17 時には帰宅しましたが，産後 1 週間くらいで論文のリバイスのためにラボに来て実験していました。それが良いとは言いませんが，ただタフだな，すごいな，負けられないなと思いました。私は高齢出産となりましたが，幸い健康で体力と気力があるためにできたのだろうと思います。また，研究室のメンバーや共同研究者の先生方に相談できる環境であることも大きいと思います。私が一つ言えることは，結婚，妊娠，出産はいつと決めて決められることではないということです。出産後，研究にブレーキがかかってしまい，不安や不満がないわけではありませんが，まるっと受け入れつつ『やれることをやる！』というスタンスでやっていくしかないのだと思います。育児は育自だそうなので！